

No.
08

ELPA Vision

プレイスメントテストに求めることとその活用

羽山恵（獨協大学准教授・ELPA 理事）

探究力・言語力・学力は糾える縄のごとし

難波俊樹（東京女子学園中学校・高等学校教諭・ELPA アドバイザー）

2021 年度 ELPA オンラインセミナー報告

特定非営利活動法人(NPO)
英語運用能力評価協会

ELPA Association for
English Language
Proficiency Assessment

〒162-0806 東京都新宿区榎町 39-3 神楽坂法曹ビル 501

Tel: 03-3528-9891 Fax: 03-3528-9892

e-mail: elpa@english-assessment.org URL: <https://english-assessment.org/>

英語 4 技能プレイスメントテスト E-Vision モニターテスト受験校募集

英語 4 技能プレイスメントテスト E-Vision とは

高大接続改革の目標、「急激な社会変化の中でも、未来の創り手となるために必要な資質・能力を備え、自立して社会に貢献する人材を育成すること」に即して、今年 2022 年から実施される高等学校の学習指導要領「英語コミュニケーション」「論理・表現」でも、英語 4 技能評価が求められます。

ELPA から 2022 年 9 月発売予定の「英語 4 技能プレイスメントテスト E-Vision」では、「ライティング、スピーキング、リスニング、リーディング」の 4 技能の力をウェブサイト上のテストでコンピュータ、タブレット、スマートフォンにより測ることができ、「主体的・能動的な学習」で必要となる、総合的な英語力がどの程度身についているかが把握できます。また関連のウェブ教材も発売予定であり、受験後のフォローにもつながられます。

特に大学入学前の英語のクラス分けテストでご利用いただく際にも集団受験の必要がなく、自宅など、コンディションの整った環境で受験していただけます。また入学前でまだ学生の手元にコンピュータが用意できていないという場合にも手持ちのタブレット、スマートフォンで受験可能です。

高等学校、高等専門学校、短期大学・大学まで広くご受験いただき、グローバル化が進む社会に対応できる英語力を身につけるのに役立てていただければ幸いです。

■英語 4 技能プレイスメントテスト E-Vision 問題概要■

◇仕様：コンピュータ、タブレット、スマートフォンを使用したウェブサイト上の個別受験型テスト	＜内容＞
◇出題レベル：高校英語総合レベル	1：リスニング（多肢選択）
◇試験時間：リスニング 20 問 25 分	2：リーディング（多肢選択）
リーディング 20 問 25 分	3：ライティングテスト（文再現・整序／自由産出問題出題可能性あり）
ライティング 20 問 10 分	4：スピーキングテスト（文再現・整序／自由産出問題出題可能性あり）
スピーキング 20 問 10 分	
合計 約 70 分（※練習問題、自由産出問題除く）	

モニターテスト受験校募集中

現在、2022 年 7 月までに「英語 4 技能プレイスメントテスト E-Vision」のモニターテストを実施していただける学校を募集中です。（一定数に達したら締め切りといたします。ご了承ください。）

■実施概要■

・受験料：無料
・時期：2022 年 3 月から 7 月まで
・対象：高等学校／高等専門学校／短期大学・大学 等
・人数：40 名以上
・テスト終了後、引き続きアンケートに答えていただきます。所要時間は約 10 分です。
・受験者名簿を事前にデータでいただきます。
・採点データは、モニターテスト実施後 2 週間程度でお届けします。なお、詳細なスコアレポート等は提供いたしません。

※個人情報、テストの解答およびアンケートのデータに関しては、調査・研究及びデータ分析の目的以外には一切使用いたしません。

特定非営利活動法人 英語運用能力評価協会（ELPA）

〒162-0806 東京都新宿区榎町 39-3-501 Tel.03-3528-9891/Fax.03-3528-9892

e-mail: elpa@english-assessment.org

URL: <https://english-assessment.org/>

ELPA Association for
English Language
Proficiency Assessment

プレイスメントテストに求めることとその活用

獨協大学准教授・ELPA 理事 羽山恵



ELPA では新しいテスト、E-vision を開発中だ。このテストは大学で活用されることを前提に、英語 4 技能それぞれのテスト問題があること、タブレットやスマホなどでも受験できることが特徴である。一連の開発作業に携わっている最中ふと目にした文献に、「能力別学習集団編成の教育効果は低い。その順位は 138 要因中 121 位だ！」（『教育の効果－メタ分析による学力に影響を与える要因の効果の可視化』）という衝撃的な記述があった。「いやいや、そんなことはないでしょう…！」というのは、自分の本務を通して日々実感しているところだ。

本学では新入生が入学したばかりの 4 月と 1 年生終了時点（1 月）に TOEIC L&R IP テストをプレイスメントテストとして実施しており、その結果を利用して 1・2 年次のクラス編成を行う。私の所属している英語学科は、各学年の学生数が 300 名近くと多く、その英語力の幅も大きい。実際にプレイスメントテストに基づいて作った 3 つのグループの得点には有意差が確認され、実態としてもそれぞれ異なる特性を持つ集団であるように感じられる。したがって、今後もプレイスメントテストを実施しなくなるということはありません。

プレイスメントテストの開発に関わり、また継続的に利用してきた立場からすると、本稿ではその「長所」よりもあえて「短所」の方に目を向けてみたい。ただし「短所」を書き連ねるのもおこがましくまた生産性が低いので、「要望」と言い換えてみる。また、テストの供給側にリクエストするばかりでは申し訳ないので、プレイスメントテストの結果を受けてこちら（教育）側が行うべきことも考え述べておきたい。それぞれ 3 つずつくらいが紙面上適切だろうか。

＜プレイスメントテストへの要望＞

要望①：4 技能それぞれのテストがあってほしい

要望②：結果は超特急で戻ってきてほしい

要望③：継続的に利用できるものであってほしい

＜こちら（教育）側がすべきこと＞

すべきこと①：技能別にクラスを編成をすべき

すべきこと②：クラスに合わせた教育内容にすべき

すべきこと③：能力別クラスを考慮した評価体制を確立すべき

「要望①」に関連してここ数年特に感じるのは、「英語力が高い」といっても、得意な技能は学生個人によってさまざまに異なるなどということだ。最近では外国滞在歴が長かったり外国にルーツを持ったりする学生も非常に増えている。そういう学生の場合、listening や speaking の能力、特に流暢さが優れている（ペラペラ型）。一方で、外国に行ったことはないが、国内の高校でコツコツと英語の勉強を続けてきた、語彙・文法知識も豊富で特に reading には自信がありますよ、という学生も相変わらず一定数いる（コツコツ型）。そうすると本学で採用しているような TOEIC L&R で高得点を取って「上位グループ」に入る学生は、これら 2 つのタイプが混在することになる。教える方もやりづらさを感じるが、特にコツコツ型の学生達はペラペラ型の超流暢な speaking の様子に圧倒され、「次回のプレイスメントテストでは意図的に低得点を取って、より低いグループに行くぞ！」と違った方向への決意を固めてしまう場合もある。これは非常にもったいないことだ。こういった事態を避けるためにもプレイスメントテストではぜひ 4 技能を測り、それぞれの技能を考慮したクラス編成をした上で教育をしてあげたい。それが「すべきこと①・②」につながる。

要望②と要望③はテスト運営上の実務に関わることになる。プレイスメントテストは入学者確定からクラス分け、授業開始までが短期間のうちに行われるので、超特急で結果が返ってくると大変ありがたい。また、1 年間の学習・教育効果や年度間の比較をするために、同一レベルで異なる問題から成る複数のテストセットがお手頃価格（大事！）で提供されることも、プレイスメントテストに望むところである。

最後に残ってしまった「すべきこと③」はやっかいだ。習熟度別に分けたグループそれぞれにおいて「レベル内尺度（どのグループにおいても同一の基準で「優」や「良」を出す）」を用いて成績評価を行うと、「下のレベルに入っ



た方が良い成績とりやすいんじゃない！」ということに気づく学生、実際にそれを実行してしまう学生が出てくる。この問題は以前から指摘されており（石川・西田・斉田，2011；大谷・横山・ワッツ，2011）、加えて斉田・有田（2010）ではその解決方法としての、習熟度別グループ内の到達度評価に全体に対して実施した熟達度評価の結果を「合成」する実例が紹介されている。それなのになぜまだ習熟度別クラスを前提とし、その特性を十分に考慮した学修評価体制が確立できていないのだろうか？（皆さんのご勤務校ではどうでしょうか？）一連の小中高の学習指導要領改定に伴い、「指導と評価の一体化」がますます重視されている。プレイスメントテストに関しては、「評価―指導―評価の一連化」がさらに重視されるべきではないだろうか。今後はプレイスメントテストが教育現場へよりいっそう馴染み、評価と指導の有機的な関係が充実することが望まれる。

めまぐるしく変わる国際情勢や急速に進み続けるグローバル化により、学生たちの英語力はその特性がさまざまであることは既述した。小学校から推進されている指導と評価の一体化も至極もっともだ。それらに対応しようと奮闘する教員を助けられるようなプレイスメントテストの開発・利用が、今後さらに重要性を増してくると確信している。（はやま・めぐみ）

探究力・言語力・学力は糾える縄のごとし 探究学習のすすめ

東京女子学園中学校・高等学校教諭／日本語リーディングリテラシー研究会フェロー・ELPA アドバイザー
難波俊樹

2022 年度は探究元年と呼べる年になり、探究を巡って様々な議論がありますが、しばしば「基礎力なしに、よい探究はできない」という言説が見られます。また、「探究活動に時間をとられると基礎学力が向上しない」と言う関係者もいます。個人的には、それは半分は正しく、半分は誤りだと考えています。

なぜかと言えば、基礎力・学力の一つとされる言語運用能力と探究の力は相互に作用し合ってお互いを高めていくことが、生徒の活動から見て取れるからです。言語運用能力の高い生徒は、その気になれば質の高い探究活動を行います。また、探究活動を通じてその言語運用能力も高まります。発表だけでなく、資料の読み取り、仲間とのディスカッションと、その全ての力が探究活動により向上します。

今年度、慶應義塾大学法学部の FIT 入試（総合型選抜）に合格した本校生徒の一人もその好例です。入学時からしばらくの成績はあまり芳しくなかったようですが、探究活動を通じて同入試へ対応する力を身につけました。ある程度システマティックに対応力が得られる一般入試と異なり、総合選抜という名があらわすように、総合的な学力・能力が問われます。それは、従来のような反復学習では身につけにくいもので、探究活動の中で相互作用的に身につけていくものだと思います。

新学習指導要領では、各教科で「言語運用能力」を向上させるということが盛り込まれています。一般入試でも、22 年度共通テストの数学の問題が物議をかもしたように、従来の「数学」で問われる能力に加え、言語運用能力がなければ高得点は厳しい内容になりました。

あれこれ考える前に、「まず基礎力をつけてからの探究」と、構えず気楽に探究活動を始めてはいかがでしょうか。（なんば・としき）



ELPA セミナー 2021 報告

2021 年度に開催したセミナーは以下のとおりです。全回 Zoom Webinar/Zoom Meetings で行いました。（全 11 回）
※ ELPA 会員になると ELPA が開催するセミナーへの参加（動画視聴含む）が無料になります。

2021 年 4 月 24 日 大学入学共通テストとリーディングリテラシー

「日本語リーディングリテラシーテスト」は、現代社会において求められるリーディングリテラシーを「知識・情報・データ読取・論理・文脈・内容把握」の 6 つの観点から測定評価し、その修得やスキルアップへの道筋を示すテストです。

大学入学共通テストが始まり、従来の読解力とは違うリーディングリテラシーが求められていると言われています。それはということなのか？ 教科別に分析しました。

【講師】

永田麗（日本語リーディングリテラシー研究会代表・河合塾ほか国語科講師、ELPA アドバイザー）／堤晋介（日本語リーディングリテラシー研究会フェロー、ELPA アドバイザー）／藤田元（東洋英和女学院大学・東京経済大学非常勤講師、博士〔言語学〕）／難波俊樹（東京富士大学非常勤講師、東京女子学園中学校・高等学校先端学習部長、ELPA アドバイザー）

2021 年 5 月 15 日 言語テスト：目標の到達と未到達―大友賢二先生追悼―

ELPA 設立当初から理事を務めてこられた大友賢二先生（筑波大学名誉教授）が、2021 年 1 月、永眠されました。先生を偲んで、大友先生と研究を共にしてこられた 3 人の先生から、スタンダード・セッティングを中心にお話をうかがいました。最後の 20 分は大友先生を偲ぶ会としました。

【講師】

中村洋一（清泉女学院短期大学教授、ELPA アドバイザー）／法月健（静岡産業大学教授）／小泉利恵（清泉女子大学准教授、ELPA アドバイザー）

2021 年 6 月 19 日 英語教育は「道具としての AI」をうまく活用できるのか？

ビッグデータと深層学習に基づく最近の AI（人工知能）の進展は近年めざましく、DeepL や GoogleTranslate の機械翻訳、Chrome ブラウザーの英語自動字幕起こしの結果はほぼ完璧なこともあります。こういった状況を受けて、「英語教育は大幅に削減できるのではないか」という声もちろほら聞こえてきます。しかし、現在主流の AI には構造的および機能的な限界があり、人間の知能を補助し拡張することはできても、それに取って代わることはできません。本セミナーでは、AI の限界を明らかにしたうえで、AI 時代に大学英語教育が遂げるべき質的転換について論じました。加えて、AI で生産性が高まるにつれ、実はこれまでよりも高いレベルの英語力の学習が必要になることも示しました。

【講師】柳瀬陽介（京都大学・国際高等教育院教授、ELPA アドバイザー）

【パートナー】岡田健志（株式会社 増進堂・受験研究社主任研究員、ELPA アドバイザー）

2021 年 7 月 17 日 XR 技術は教育現場をどのように変革するのか？～言語教育にも使えるカンタン VR 教材制作～

昨今、XR（VR・AR・MR）技術活用の勢いが止まりません。通信やデバイスの品質が上がり、また安価になってきました。文字のテキストから音声や動画の教材へと発展することで学習体験が豊かになってきたのと併せて、これからの教育の中での XR 技術が注目を集めています。一方で、どのようにその技術を使ったらいいのか、普段の教育活動にすぐに使えるものなのか、よくわからないというのも正直なところでしょう。

本セミナーでは、XR の技術を概観し、教育サービス紹介、どのような教育効果が期待されているかを説明しました。また、360 度カメラが学校・クラスに一つあるだけでカンタンに VR 教材が制作できるという例も示しました。

【講師】岡田健志（株式会社 増進堂・受験研究社主任研究員、ELPA アドバイザー）

2021 年 8 月 22 日 英語 4 技能 Online プレイスメントテスト、ただ今開発中！

2020 年末開催したセミナー「英語プレイスメントテスト再考～今、その意義を問う」に続き、英語プレイスメントテストが備える要件を考え、ELPA が開発中の英語 4 技能プレイスメントテスト E-Vision を紹介するセミナーを開催し、モニターテスト受験のご案内もしました。

【講師】根岸雅史（東京外国語大学大学院教授、ELPA 理事長）／中野達也（駒沢女子大学教授、ELPA 理事）／羽山恵（獨協大学准教授、ELPA 理事）

2021 年 9 月 11 日 社会に生きる 日本語・国語能力の育成

私たちは普段から情報を得て熟慮し、自分の思いや思考を表現します。主体的で対話的な深い思考や活動の基盤には国語教育が不可欠です。一方、日本社会には外国にルーツを持つ人たちが大勢います。日本人のための国語教育のみならず、学校・職場で彼らを迎えるとき、彼らに日本語教育を行う・日本語でコミュニケーションをとる等、さまざまなシーンで日本語・国語教育を考える機会が増えています。このセミナーでは、ツールとしてだけでなくコンテンツを伴った伝わる日本語、世界につながる日本語としての日本語・国語教育について、講師の最先端のお話を参加のみなさんと広く共有しました。

【講師】吉田和夫（一社 教育デザイン研究所代表理事、日本大学文理学部講師、ELPA アドバイザー）

【パートナー】石川陽子（株式会社 エルロン代表取締役社長）

【コーディネーター】岡田健志（株式会社 増進堂・受験研究社主任研究員、ELPA アドバイザー）

2021 年 9 月 25 日 これからの英語教育＜初等教育と中等教育の橋渡し＞

新学習指導要領が小学校・中学校では全面的に、高等学校では 2022 年度から年次施行となり、学習評価の観点 が 4 つから 3 つに整理されました。目標として CEFR も導入されています。「主体的、対面的で深い学び」でどう発信するかを重視した授業を受け、評価された子どもたちが中学校、高等学校、大学へと入ってきます。目標のレベルに到達するための授業はどうデザインし、どう評価したらよいのか。「目標・指導・評価の一体化」の重要性やその方法について、全国の都道府県教育センター等で行われる教員研修の講師やセミナーの講師として招聘されている先生にうかがいました。

水泳にたとえれば、クロールの泳ぎ方の理論は教えたが実際に泳がせてはいない、また、クロールを教えたのに評価は平泳ぎで行った、ということになってはいしないか、参加者のみなさんと考えるセミナーとなりました。

【講師】亀谷みゆき（朝日大学経営学部・英語教育センター教授、ELPA アドバイザー）

2021 年 10 月 2 日 社会・企業で求められる英語力について 「学ぶ英語から使える英語へ」

中学、高校での学びを経て、今、大学ではどのような英語教育が行われるべきなのでしょう。これから社会・企業へと巣立っていく学生たちに、元公立中学校教諭のご経験を生かして、「楽しく仲よく」「学ぶ英語から使える英語へ」をモットーに課題解決型の英語教育を実践されている先生のお話をうかがいました。

このセミナーでは、「社会・企業でどのような文法や語彙の知識が必要か」「社会・企業でどのようなフレーズや提携表現が多用されるか」「TOEIC® で高得点を取るにはどのような学習が効果的か」などはテーマとせず、高校からの橋渡しをする大学と受け入れ企業での対話をめざしました。

【講師】奥村耕一（情報経営イノベーション専門職大学講師）

2021 年 10 月 30 日 みんなで考える！ AI ツールを使った教育サービス

教育現場で指導にあたられている先生方は常に新たな教材やツールの出現にアンテナを立て、出版社・教材会社のみなさんは日々現場のニーズに即して新たな技術をどのように教材に実装するか考えられていることでしょう。そういった、教育にかかわるさまざまな立場の方々と一緒に「どんな AI ツールがあれば教育や学習が活性化できるか？」を議論しました。

今回は、実際に AI ツールのサービス設計の実例を紹介しつつ、事前質問へ返答する「第一部」と、参加者と登壇者が語り合う「第二部」に分かれて実施しました。

【講師】岡田健志（株式会社 増進堂・受験研究社主任研究員、ELPA アドバイザー）

【パートナー】柳瀬陽介（京都大学・国際高等教育院教授、ELPA アドバイザー）

【スピーカー】北澤尚子（ELPA 事務局、テストおよび教材編集制作担当）

2021 年 11 月 21 日 GIGA スクール、次のステップへ

全国の小中学校に一人一台端末が行き渡り、GIGA スクール元年と言われた今年度も後半に入りました。子どもたちの創意工夫にも助けられて、黒板と教科書、ノートがタブレット一台に置き換わるのも日常の風景になってきています。この後、デジタル端末を遊び道具に終わらず、目標のアクティブラーニングにつなげる測定と評価はどうしていけばよいでしょうか。到達目標を考えるためには、授業をする前にテストを作ることが必要となります。これが実は原点です。タブレットを使う前にテストを作っていますか？ 先生方のこれまでの経験による測定と評価のノウハウを、デジタル端末を使って定型化することも考えました。

【講師】中村洋一（清泉女学院短期大学教授、長野県千曲市教育委員、日本言語テスト学会副会長、ELPA アドバイザー）／宮原明人（長野県千曲市立戸倉小学校校長）

【パートナー】岡田健志（株式会社 増進堂・受験研究社主任研究員、ELPA アドバイザー）

2022 年 2 月 23 日 教育の情報化で加速される「評価」 これまでとこれから

ELPA 設立当初からかかわってきた事務局長の白戸治久が、日本の英語教育、情報化の流れから、そこに少なからず貢献してきた ELPA のプロジェクトについて縦横無尽に語りました。

ELPA は発足後 20 年あまり、日本の英語・国語教育、テスト、測定と評価の動向を追い続け、それに対応した教材・テスト開発、実証研究を行ってきました。テクノロジーの発達により、従来では困難と思われた観点も測定し評価できるようになってきています。質問、感想を随時受け付け、このシンポジウムを通じて、ELPA と連携して実現できることは何かを知っていただき、これからの教育について参加者のみなさんと一緒に考える機会としました。

【講演者】白戸治久（ELPA 事務局長）

【パートナー】岡田健志（株式会社 増進堂・受験研究社主任研究員、ELPA アドバイザー）

【飛び入り参加】中村洋一（清泉女学院短期大学教授、ELPA アドバイザー）

※講師の肩書きは登壇時のものです。

【ELPA 英語教育チャンネル】

<https://www.youtube.com/channel/UCkQro2qd3BIZYqSJxv7ACg/videos>

上記サイトにて、オンラインセミナーの動画を公開しています。ぜひご覧ください。各セミナーとも冒頭 10 分抜粋版です。



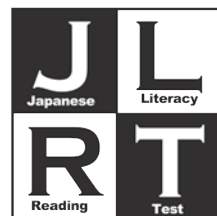
No.
08

ELPA
Vision

2022 年 5 月 15 日発行
発行人：根岸雅史 ロゴ・フォーマットデザイン：ユーフォーブックス
表紙写真：北澤尚子（五色沼・福島県）
発行所：特定非営利活動法人（NPO）英語運用能力評価協会（ELPA）
〒162-0806 東京都新宿区榎町 39-3 神楽坂法曹ビル 501
Tel: 03-3528-9891 Fax: 03-3528-9892

日本語話者のみなさん、「英語」の前に「日本語」で書かれた文章が正しく読み解けていますか？

読解力は情報化社会に適応するために必要な総合スキルです。誤解や取り違えをすることなく相手の真意をとらえ、文脈の中での言葉の使われ方に注意して読み解くことが肝要です。言葉を前後の文脈から切り離しても正しい内容は理解できません。正確な内容理解に必要なのは、周囲の記述との関係性に注意をはらい、かつ異なる情報を組み合わせたうえで、「語意」や「文意」を把握することです。本書は20年間英語能力を評価してきたNPOが日本語文章を読み解くスキルを鍛えるために開発した、トレーニングテキストです。



新・読解カトレーニング 日本語リーディングリテラシー 錬成 BOOK

日本語リーディングリテラシー研究会編／120 ページ（予定）／予価 1320 円（税込）／2022 年 7 月 7 日発行予定

●こんな方におすすめ●

「国語」の現代文や「数学」などの文章題の得点が安定しないで困っている中学生、数学・理科、地歴・公民など教科内容を正しく理解して克服したい高校生、日本語で書かれたテキスト特に論文を正しく理解したい大学生、日々大量に送られてくる情報文や図表を正しく理解したい社会人

内容見本

2. 情報

Ⅰ：読解における重要性

→「なんとなくわかったつもり」は実際には理解できていない。

1：日本語で書かれた一般的な文章の読み取りに際しては、情報が正しく把握できることが重要です。論説文ではなく、実際の情報伝達に使われる文章は、しばしば書き手の表現力に問題がある場合も、また書き手の考えている主題と読み手が必要としている情報が違う場合もあります。その際、①安定して②適切に判断することが重要です。具体的には、要不要を判断する、言い換えると、その必要な情報を選択したり抽出したりできるかというところがポイントです。

4. 論理

Ⅰ：命題・ベン図

→解法の戦略＝文章を命題としてとらえる

1：文章を命題としてとらえる

文章を命題としてとらえると、論理的構造が把握しやすくなります。命題というのは「〇〇であるならば△△である」という形です。

〈例〉

大阪人は関西人だ ▶ 大阪人である→関西人である

4の倍数は2の倍数だ ▶ 4の倍数である→2の倍数である

犯人はここにいる ▶ 犯人である→ここにいる

5. 分脈

Ⅰ：そもそも「文脈」とは？

→解法の戦略＝「速読・速解」がキーワード！

1：「文脈」（＝コンテキスト）とは

→語と語、あるいは文と文の間の「意味の続きぐあい」と、それによってある語や文に対して働く「意味を規定する力」をいう。比喩的に、「すじみち」や「背景」などを指して使われる。

（例文）アメが降ってきたよ。
「アメ＝雨」 （前文 A） 天気予報の通りだ！
「アメ＝飢」 （前文 B） さすがお菓子の国だ！

本書は「日本語リーディングリテラシーテスト」受験後、読解力を高めるべく開発されました。

現代日本語テキストを読み解くための 日本語リーディングリテラシーテスト

「従来型の読解力」にとどまらず、「新・読解力」を測定評価するテストです。

定価：682 円（税込） 問題数：50 問 試験時間：50 分

■日本語リーディングリテラシーテスト問題概要■

【知識】14 問 【情報】6 問 【データ読取】8 問 【論理】9 問 【文脈】5 問 【内容把握】8 問

◇仕様：CBT（コンピュータ）／PBT（マークシート）による多肢選択問題 ◇文章出題レベル：高校国語総合